

香川県地域包括ケアシステム推進委員会

はじめに

各士会会員の皆様には平素より当委員会における活動にご理解、ご協力賜り、誠にありがとうございます。令和3年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う移動や活動の制限のため、事業の縮小や中止などが相次ぎました。しかしながら、昨年度より導入された、リモート形式での研修会では昨年を上回る参加者を得られることもありました。会員の皆様の「地域包括ケアシステム推進」へのご理解がますます進んできたものと心強く思っております。

さて、香川県地域包括ケアシステム推進委員会では、地域包括ケアシステムの推進のために地域で活躍できるリハビリ専門職の育成や、香川県から委託を受け地域住民向けの認知症予防キャラバン事業への協力等、多くの活動を行っています。本紙にて、香川県地域包括ケアシステム推進委員会の令和3年度の活動についてご報告いたします。

01 地域ケア会議推進リーダー導入研修会

令和3年10月24日(日)、Zoomを用いたリモート形式にて地域ケア会議推進リーダー導入研修会が開催されました。

本研修会では、①地域包括ケアシステムについての概要、②地域ケア個別会議の位置付け、③求められるリハビリ専門職の役割等により地域ケア個別会議についての考えを深め、また④実際の書類等を用いて模擬会議を行い、会議の流れや提案の仕方等を経験しました。

現在、香川県内でも「地域ケア個別会議」が広く展開されていますが、検討内容や求められる役割は日々変化しています。地域の期待や要請に応えられるよう、交互も研修会を企画しています。初めての方はもちろん、新たな知見を得たい方にも実りある研修会となるよう準備し、お待ちしております。

参加者:25名(PT:15名、OT:4名、ST:4名、県職員:2名)

02 介護予防推進リーダー導入研修会

令和4年2月21日(月)、22日(火)の両日、Zoomを用いたリモート形式にて介護予防推進リーダー導入研修会が開催されました。

本研修会では、①介護予防事業に関連する行政組織・関連団体と福祉計画、②介護予防事業の展開方法、③介護予防の実践、④介護予防事業の計画立案について講義、グループワークにて学びました。講義と実習を別日での開催という新しい試みで実施しましたが、多くの方にご参加いただけ、積極的な学びの場となりました。現在、コロナ禍にて県内の多くの通いの場や介護予防関連の教室等が中止や規模が縮小されており、高齢者の身体・精神面の低下が危惧されています。コロナ禍での開催方法の検討やコロナ禍開けに動ける体制づくりを進めていく必要があります。

実際の介護予防事業の関わりがイメージしにくい方、興味はあるけれどどうすれば良いかわからない方は、次年度の研修会には是非とも参加をお願いします。

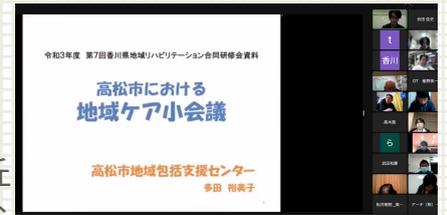
参加者:延べ67名 1日目 38名(PT:20名、OT:9名、ST:3名、学生:6名)
2日目 29名(PT:16名、OT:8名、ST:2名、学生:3名)

令和4年2月18日(金)、2月25日(金)両日、Zoomを用いたリモート形式にて第7回香川県地域リハビリテーション合同研修会が開催されました。

今年度は、「香川県における地域ケアシステム推進を考える」をテーマに香川県理学療法士会保険部より津川義弘先生、佐藤勇人先生、竹内丘先生がご登壇され、リハビリ専門職の地域での関わりについて先進的な

取り組みをしている観音寺市、綾川町での事業について紹介がありました。また、高松市地域包括支援センターより多田裕美子様、綾川町地域包括支援センターより奥野高史様をお招きし、「香川県における地域ケア会議の現状と課題」をテーマにシンポジウムを行いました。専門職が地域ケア会議に参加することでの利点や、ケア会議において専門職に求められている事柄について学ぶ良い機会となりました。

まだまだ県内で開催される地域ケア会議の数は限られており、多くの会員の皆様に参加して頂く機会が十分ではありません。まずは、今回の研修会で学んだことを普段の退院前カンファレンスやサービス担当者会議等で役立てていただければと思います。



参加者:延べ160名 2月18日 81名(市町:36名、居宅:37名、県:2名、PT:5名、ST:1名)
2月22日 79名(PT:44名、OT:17名、ST:7名、学生:11名)

令和3年11月5日(金)、Zoomを用いたリモート形式にて令和3年度認知症予防運動指導者養成研修会(基礎編)が開催されました。本研修会は、香川県から委託を受けて平成28年度より実践している認知症予防キャラバン事業で活躍していただく講師の養成、及びリハビリ専門職の知識・技術の向上を目的に毎年開催されています。

本年度も国立長寿医療研究センターより島田裕之先生を講師にお迎えし、認知症の病態・疫学・MCIなどに対して基礎的な内容や、島田先生の研究実績を含む科学的根拠を踏まえて、運動習慣の継続によるMCI改善や予防効果についてのお話を聞くことができました。また、運動習慣だけでなく、栄養や社会交流の大切さや開発されたアプリの紹介などについても併せてご講演いただきました。



参加者:52名(PT:14名、OT:16名、ST:6名、学生:16名)

ご講演で紹介いただいた「通いの場アプリ」

令和3年12月3日(金)、Zoomを用いたリモート形式にて令和3年度認知症予防運動指導者養成研修会(実践編)が開催されました。

本年度も国立長寿医療研究センターより土井剛彦先生を講師にお迎えし、MCIに対しての運動習慣の継続による改善、予防効果の説明やコグニサイズの実践についてご講演いただきました。

参加者:44名(PT:21名、OT:11名、ST:6名、学生:6名)

香川県では認知症予防に向けて、「運動・栄養・社会交流の三位一体プロジェクト」を推進しています。県からの委託事業である認知症予防キャラバン事業では、今年度もリハビリ専門職が介護予防教室、長寿大学、敬老会など高齢者の集いの場に講師として派遣され、認知症予防運動(コグニサイズ)を実践・指導いたしました。

今年度も、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の拡大、まん延防止等重点措置の適応などもあり、事業中止なども散見されました。

本委員会では、今年度も感染予防対策の徹底を行い、講師・参加者が安心かつ安全に参加できるように務めました。

参加者や依頼元である地域包括支援センター担当者からは、例年通り好評の声が多く得られました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域の高齢者の活動性の低下、体力・認知機能面の低下を心配する声も多く挙がっております。我々、セラピストの継続した活動や支援が今後必要とされてきます。会員の皆様のご理解・ご協力を今後もよろしくお願いいたします。

令和3年度実績

★派遣依頼 71件 うち実働 49件(中止 22件)

★参加者数 640名

★派遣講師数 52名(PT:29名、OT:22名、ST:1名)

※新型コロナウイルス感染拡大によるまん延防止等重点措置により、事業委託者である香川県より令和4年1月21日以降の事業の一時中止連絡あり。

ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

実際の様子



団塊の世代が後期高齢者を迎える2025年を目の前にし、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで送ることができるよう推進される“地域包括ケアシステム”の実現に向けた手法の一つに「地域ケア会議」があります。

地域ケア会議は、地域包括支援センターまたは市町村が主催し、設置・運営する「行政職員をはじめ、地域の関係者から構成される会議体」と定義され、地域の医療・介護に関わる多職種が参加します。参加者がそれぞれの専門知見を共有しながら、よりよい支援内容について検討していくことで、地域包括ケアシステムの整備・推進につなげていきます。

地域ケア(個別)会議の目的は①個別課題の解決、②地域包括支援ネットワークの構築、③地域課題の発見があります。我々セラピストに求められる最も大きなことは「生活の視点に立った助言」です。具体的には、生活課題を引き起こす要因の評価、ICF等を用いて評価結果を分かりやすく伝えること、疾患を踏まえた生活行為の改善見通しとリスクを示すこと、対象者の有する能力を最大限に引き出すための支援を提案することなどが求められています。

香川県内でも高松市を中心に我々セラピストへの地域ケア会議への助言者としての派遣要請があります。また、香川県も地域ケア会議への専門職派遣に対して予算化し、各市町が専門職に依頼しやすい体制作りをおこなってきています。これまで派遣要請のなかった市町や回数の少ない市町からも今後派遣要請が増えてくることが予測されます。その際には、当委員会から派遣の依頼を行いますので積極的にご協力いただければと思います。

当委員会では“地域包括ケアシステム”、“地域ケア会議”について学ぶ機会を得られるよう毎年内容をアップデートして地域ケア会議推進リーダー導入研修会、介護予防推進リーダー導入研修会をそれぞれ開催しております。また、令和4年度には香川県主催の専門職向けの地域ケア会議に関する研修会も企画されています。案内準備ができましたら、各士会よりご連絡いたしますのでご参加いただければと思います。



派遣実績

令和3年度内に、香川県地域包括ケアシステム推進委員会事務局へ派遣依頼のあった地域ケア会議への派遣者数

・高松市	PT:11名	OT:21名	ST:9名
・さぬき市	PT:4名	OT:4名	
・観音寺市	PT:2名	OT:2名	
・三豊市	PT:1名	OT:1名	ST:1名
・丸亀市	PT:1名	OT:1名	
・東かがわ市	OT:2名		
・小豆島町	PT:1名	OT:1名	
・直島町	PT:1名	OT:1名	
・琴平町	PT:1名	OT:1名	ST:1名

ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

令和3年12月19日(日)、ハイブリッド形式(リモート形式Zoomとレグザムホール多目的会議室「玉藻」)にて香川県地域包括ケアシステム学会第4回学術集会が開催されました。

香川県地域包括ケアシステム学会は、「地域包括ケアシステム」を香川県で推進し、向上させる目的で平成31年に設立されました。県内の行政・医療・保健・福祉・介護の職能団体、及び産業界、住民団体を含めた関係団体などが参加しており、相互理解と情報共有・発信、地域包括ケアシステムの意識を向上できる体制の構築を目指しております。



今回、第4回目となる学術集会は、香川県薬剤師会が担当となり、「くすり～他職種から見て思うこと～」をテーマに開催されました。

東京女子医科大学病院リハビリテーション科教授の若林秀隆先生をお招きしての特別講演「生活機能を高めるリハ栄養とリハ薬剤」をはじめ、PT・OT・ST各士会を含む14団体からの一般演題、「多職種連携による薬学的課題への取り組み方～入院・外来・地域をつなぐために～」と題したシンポジウムと内容の濃い学術集会となりました。

一般演題発表

- ・「筋萎縮性側索硬化症を発症し人工呼吸器を装着した症例に対する訪問看護の関わり」
訪問看護ステーションわかな PT 成田 知弘 先生
- ・「高松市における地域ケア個別会議への参画～作業療法士の変遷と専門性～」
医療法人社団研宣会 広瀬病院 OT 田村 篤史 先生
- ・「かがわ総合リハビリテーションセンターにおける補聴器外来の現状と課題」
かがわ総合リハビリテーションセンター ST 荻田 早織 先生

ご発表いただいた先生方、ありがとうございました。

学会について

ご入会がまだの方はこの機会にぜひ会員登録をお願いいたします。



学会ホームページ



会員募集中(年会費無料)



令和3年度、香川県地域包括ケアシステム学会が香川県から委託を受けて、「香川県介護予防多職種連携推進事業」を実施いたしました。

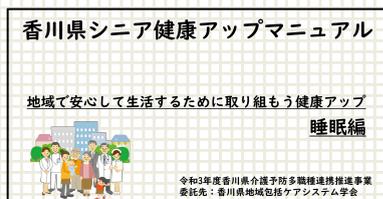
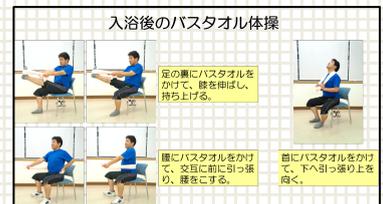
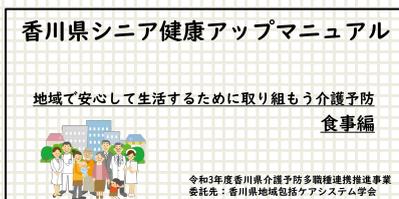
本事業では、香川県栄養士会、香川県介護福祉士会、香川県歯科衛生士会、香川県薬剤師会、香川県理学療法士会、香川県作業療法士会、香川県言語聴覚士会からの各代表メンバーにてワーキンググループを設置し、香川県医師会、高松市医師会、香川県歯科医師会、行政関係者がアドバイザー役を担いました。

事業内容の1つが、県内の通いの場において専門職がより効果的な介護予防指導が実現できるような資料集の作成です。高齢者の暮らしのためになるものとするため、生活に密接に関与する「食事」、「排泄」、「入浴」、「睡眠」、「運動」の5つのテーマを多職種協同で作成しました。

また、作成した資料内容の検証のため、県内2地区3グループの高齢者の通いの場をモデル地区として、介護予防教室を令和3年10月11日～令和4年1月6日の期間で各テーマ1回ずつ実施し、PT・OT・ST・薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士が講師を務めました。

介護予防教室受講前後にてアンケートにて効果測定をおこないましたが、主観的健康感がすべてのグループにて向上がみられ、「入浴」、「睡眠」のテーマについては受講後に行動変容が比較的多くみられる傾向も確認できました。

次年度は、さらに資料や介護予防教室の内容など検討を重ね、地域に広げていくことができる体制の基礎を構築していきたいと考えています。地域に広げていくことが出来た際には、会員の皆様にもご協力をいただく機会が増えてくると思いますので、ご協力お願いいたします。



介護予防教室の様子



編集後記

今年度の活動を振り返ると、今年度も終始新型コロナウイルスの脅威でした。私たちは新たな生活様式の構築を求められ、自身の本意とは別に行動変容を余儀なくされました。特に65歳以上の高齢者では、身体活動量が「感染拡大前と比べ約3割減少」し、外出頻度では「非フレイル群、要介護群と比べ、特にフレイル群に著しい減少」するなど、その影響が分かっています。そんな中で私たちリハビリ専門職に求められている事は何でしょうか？

第7回地域リハビリテーション合同研修会では、市町職員や居宅介護支援事業所等とともに、「香川県における地域包括ケアシステム推進を考える～地域ケア会議の現状と課題～」をテーマに意見交換を行いました。そこでは、リハビリが手段ではなく、目的となっている現状や活動の場の不透明さ、リハビリ専門職との連携への期待等が見えてきました。

「健康とは、病気でないとか、弱っていないという事ではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態(WHO)」とされています。個別的な機能訓練に留まらず、昨今の活動自粛により浮かび上がった「チャレンジする事への不安」、「繋がる事への不安」などに対する心理的そして社会的な支援、そしてそのための他職種連携や地域活動の強化等もまた、私たちリハビリ専門職に求められている大切な役割と考えます。

今年度も香川県地域包括ケアシステム推進委員会では、活動報告集にもあるように、他職種や地域からの要請に対応できる人材育成のための各種研修会開催し、多くの方を講師や助言者として派遣いたしました。特に地域ケア会議への助言者要請は年々高まってきています。本報告集を通じ、多くの方が地域への活動に関心を持っていただけると幸いです。

最期になりましたが、今年度も当委員会の活動へご理解とご協力をいただきました先生方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

香川県地域包括ケアシステム推進委員会
委員長 前田 匡史

香川県地域包括ケアシステム推進委員会活動報告集(令和3年度版)

発行:香川県地域包括ケアシステム推進委員会